

第5回「住宅部品点検の日」シンポジウム・平成28年10月3日 来場者アンケート結果

当協会では、第1回シンポジウム以来、出席者への配布資料にアンケート用紙を同封し、会場内での記入をお願いして、閉会時に受付にて回収しています。

第5回のシンポジウムのアンケートの有効回収数は、133でした。

※ 出席者186人（来賓、報道、事務局関係者除く）に対し約72%

1. 回答者の属性

アンケートの回答者の立場・職業は、「住宅部品メーカー」が69%と約7割を占めており、これに「団体職員」が20%と続いている（図1-1-1）。参加者は男性の比率が高く（図1-2-1）、年代は50代が44%、60才以上が25%、40代が21%と続いている（図1-3-1）。

前回（第4回）の結果と比較すると、立場・職業、性別は比較的似た結果であった（図1-1-2、図1-2-2）。年代別でみるとこれまでは40代以下の比率が減少傾向となっていたが、今回は40岁以下が31%となるなど、前回に比べ若い年代の参加者がやや増加した（図1-3-2）。

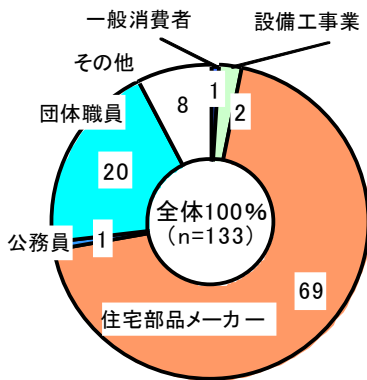


図1-1-1 回答者の立場・職業【第5回】

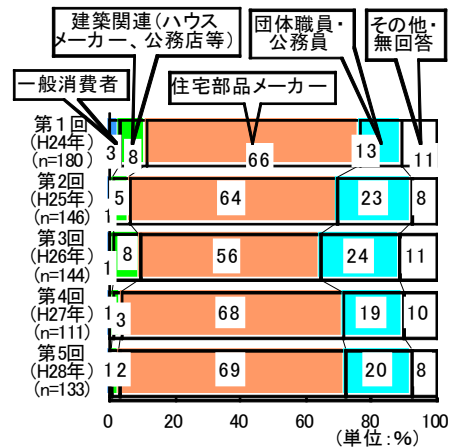


図1-1-2 回答者の立場・職業【経年比較】

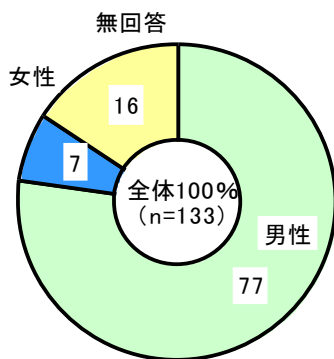


図1-2-1 回答者の性別【第5回】

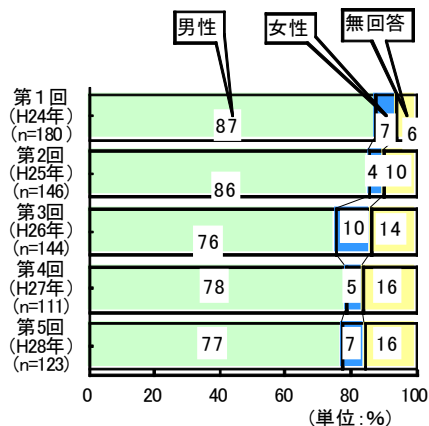


図1-2-2 回答者の性別【経年比較】

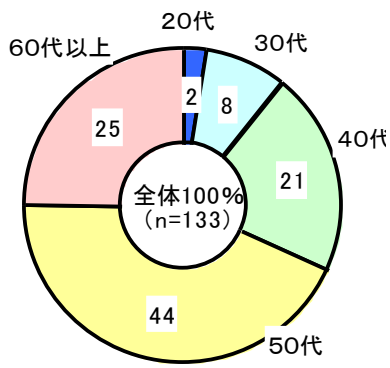


図 1-3-1 回答者の年代【第5回】

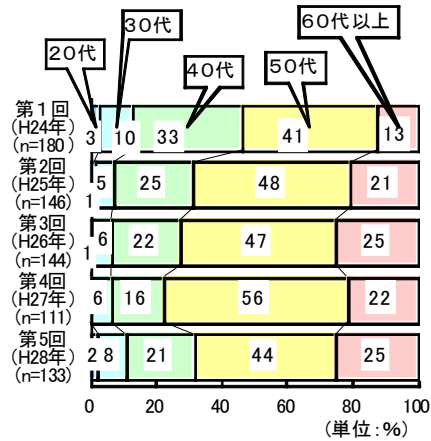
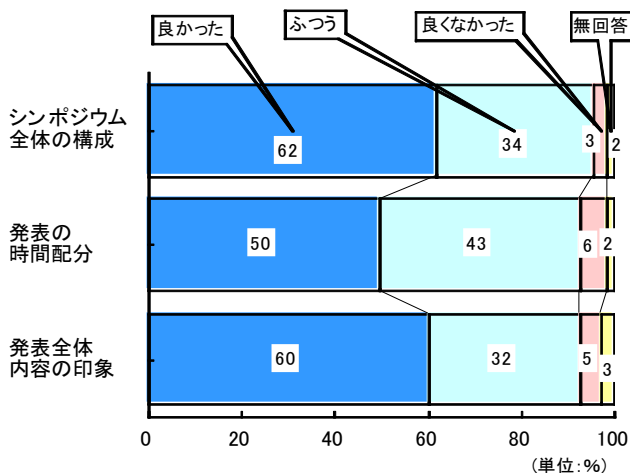


図 1-3-2 回答者の年代【経年比較】

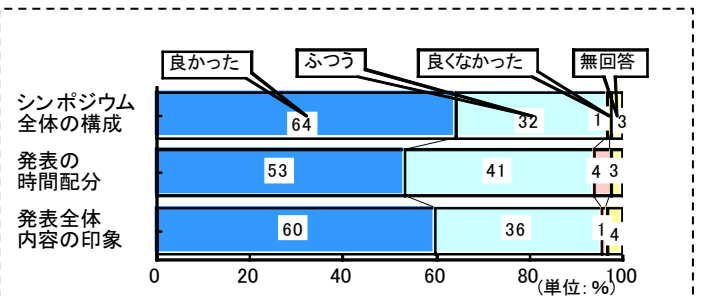
2. シンポジウム全体の印象

今回のシンポジウムの印象を、項目ごとに3段階でたずねた。「良かった」という回答比率は『シンポジウムの全体の構成』が62%、『発表全体内容の印象』が60%、『発表の時間配分』が50%と、いずれも「良かった」が半数以上となっている(図2-1)。項目ごとの「良かった」の回答比率は、前回と比較的似た水準であったが、前回と同様今回も『発表の時間配分』を「良かった」と回答した比率は、他の項目に比べやや低くなっている(図2-1、図2-2)。

その他の意見としては、“パネルディスカッションがとても良かった。時間を長くしてパネラーを増やして実施してほしい”、“総論的な話は何回も聞いているがより具体的な発表があればよい”、“BL、ALIAの発表は、結論や提言などのまとめで締めくくりしてほしい。活動報告だけでは参考になりにくい”といった意見もみられた。



【第5回(今回)】 (n=133)
図 2-1 シンポジウムに対する印象



【第4回(前回)】 (n=111)
図 2-2 シンポジウムに対する印象

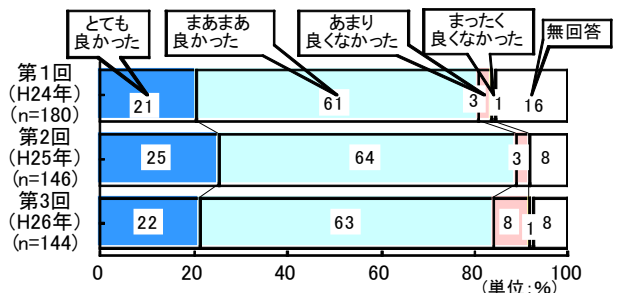


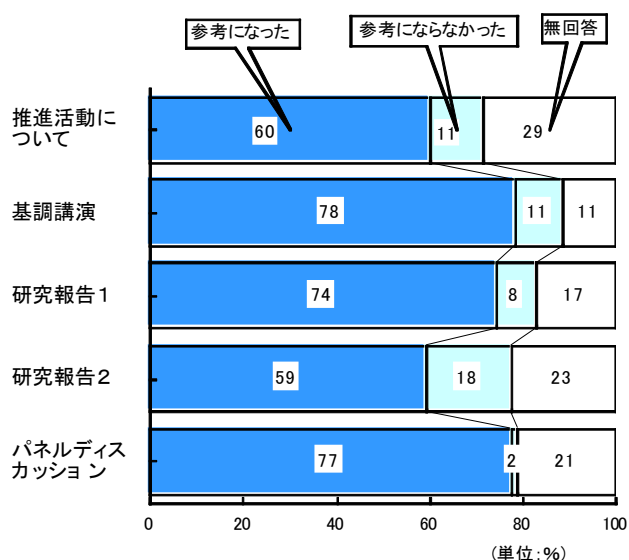
図 2-3 シンポジウム全体に対する印象【過年度】

※ 第1回～第3回と第4回～第5回では質問の形式が異なる

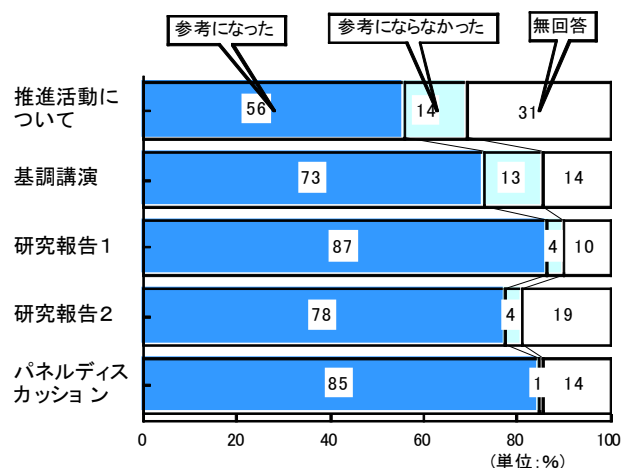
3. 参考になったプログラム

各プログラムで「参考になった」という比率は、「基調講演：『住まいの価値を高めるために 住宅履歴情報・いえかるて を使いこなそう』」が78%、「パネルディスカッション：『B to B to C 住まい手に点検の必要性を伝えるには』」が77%、「研究報告1：『住宅部品のリスクを知って点検し長く使って頂くために』」が74%、「住宅部品点検推進活動について」が60%、「研究報告2：『優良住宅部品認定制度における安全性確保の取組みについて』」が59%と、前回（第4回）に続き全体的に高い評価が得られた（図3-1、図3-2）。

シンポジウムの内容についての具体的な意見としては、「部品点検という視点での貴重な情報を聞くことができた」、「消費者目線の話はよかった」、「地域工務店の取り組み事例がよかった」、「B & B & Cの3者がコラボする必要があることがわかった」、「消費者側に知識を持たせて責任を持って使ってもらえる文化にしていく必要があることがよくわかった」といった具体的な内容に対する評価や連携・啓発などについての意見もみられた（次頁）。



【第5回（今回）】(n=133)
図3-1 特に参考になった内容



【第4回（前回）】(n=111)
図3-2 特に参考になった内容

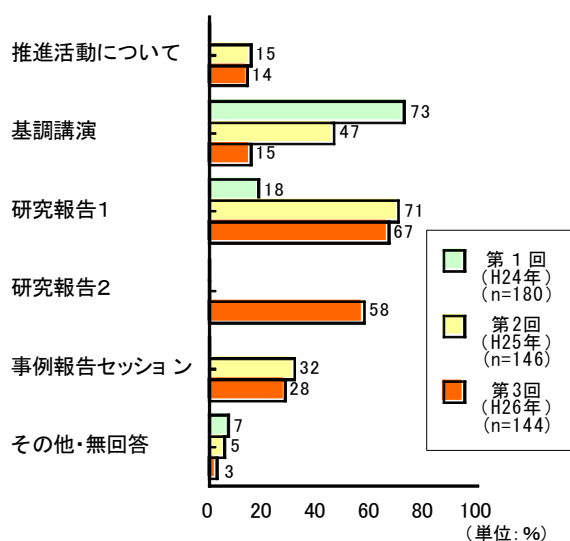


図3-3 特に参考になった内容【過年度】

※ 第1回～第3回と第4回～第5回では質問の形式が異なっている

4. “点検の必要性を伝える” ことについて

今回のシンポジウム全体を通して“住まい手に点検の必要性を伝えること”について、全体の90%から「非常に必要だと感じた」との回答が得られた（図 4-1-1）。

第1回から第4回までの結果と比較すると「非常に必要だと感じた」比率は、第1回では71%であったが、第5回ではこれが90%となるなど、点検の必要性に対する認識が徐々に高まってきていることがうかがえた（図 4-1-2）。

必要性を感じた理由としては、「安全・安心に使うことができるから」（66%）、「正しい使い方やメンテナンスについても関心や意識を高めることができるから」（54%）などが多い（図 4-2-1）。第1回～第4回の結果に比べ、選択肢の順位には大きな変化はないが、今回（第5回）は“買い替え時期を明確にすることができるから”の比率が前回よりも9ポイント高くなっており、“点検による買い替え促進など、ビジネスチャンス拡大”への期待も高くなっていると考えられる（図 4-2-2）。

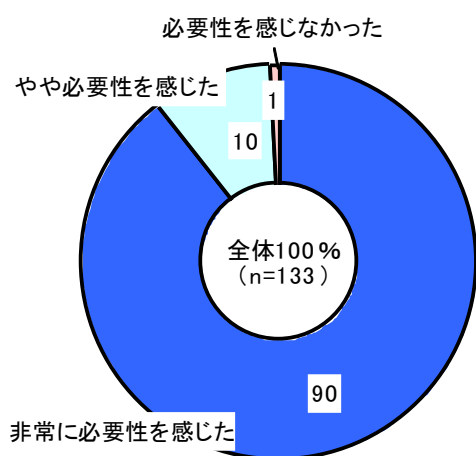


図 4-1-1 必要性を伝えることについて【第5回】

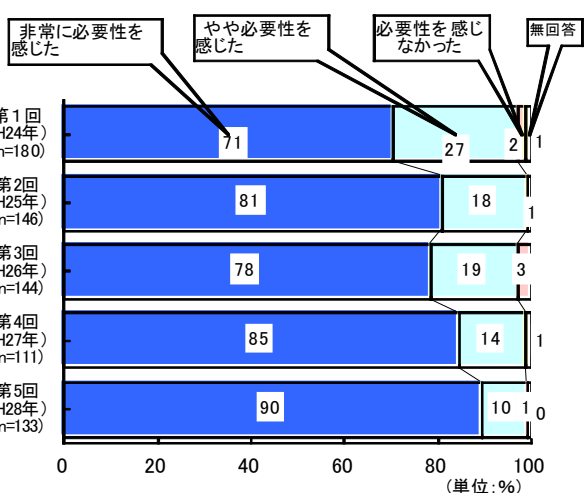


図 4-1-2 必要性を伝えることについて【経年比較】

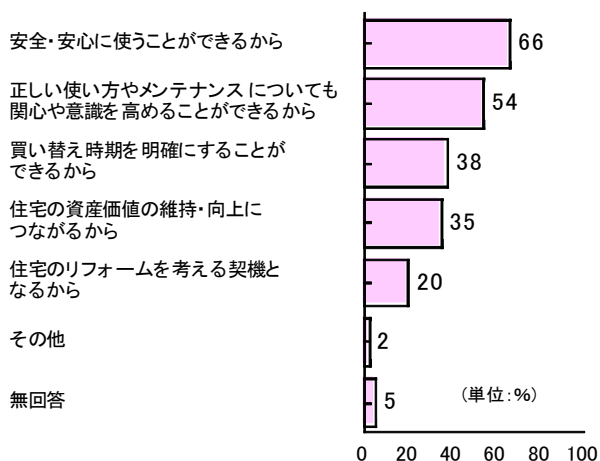


図 4-2-1 必要だと感じた理由【第5回】 (n=133)

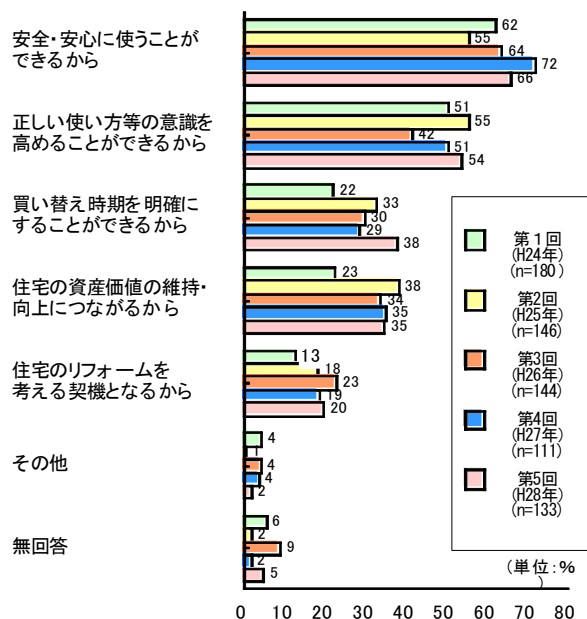


図 4-2-2 必要だと感じた理由【経年比較】 (複数回答)

(注) 第1回調査では、“住宅部品を点検する必要性”、第2回調査では、“保守点検の重要性”、第3回調査は“点検の重要性”、第4回調査以降は“点検の必要性を伝えること”について聞いた内容となっている。

“点検の必要性を伝える”ことについての具体的な意見としては、“点検時期・交換目安時期の明確化”、“消費者意識をどう変えるか（消費者教育）”、“IOTの活用”など、さまざまな意見があがっている。点検時期・交換時期目安などの情報を積極的に発信し、消費者の自覚を促すとともに、IOTなどさまざまな技術や制度の活用により、無理なく、点検・交換が進んでいくような体制を整えていくことが期待されている。

5. “製品の情報や修理・交換に関する情報”についての要望事項

“製品の情報や修理・交換に関する情報”についての要望としては、全体の74%が「一般消費者に対する広報、周知を図ってほしい」をあげており、一般消費者への周知が最も重視されている。次いで「点検の必要性の広報や法制化など、行政からの支援がほしい」（55%）、「点検の標準化や連絡窓口の明示など、点検を実施または依頼しやすくしてほしい」（31%）、「今回のシンポジウムのようなイベントで取り上げてほしい」（20%）などの要望が続いている（図5-1）。

過年度との比較をみると引き続き“一般消費者への広報・周知”が最も重視されているが、“点検の必要性の広報や法制化など、行政からの支援がほしい”の比率が、前回に続き今回もアップしている（図5-2）。

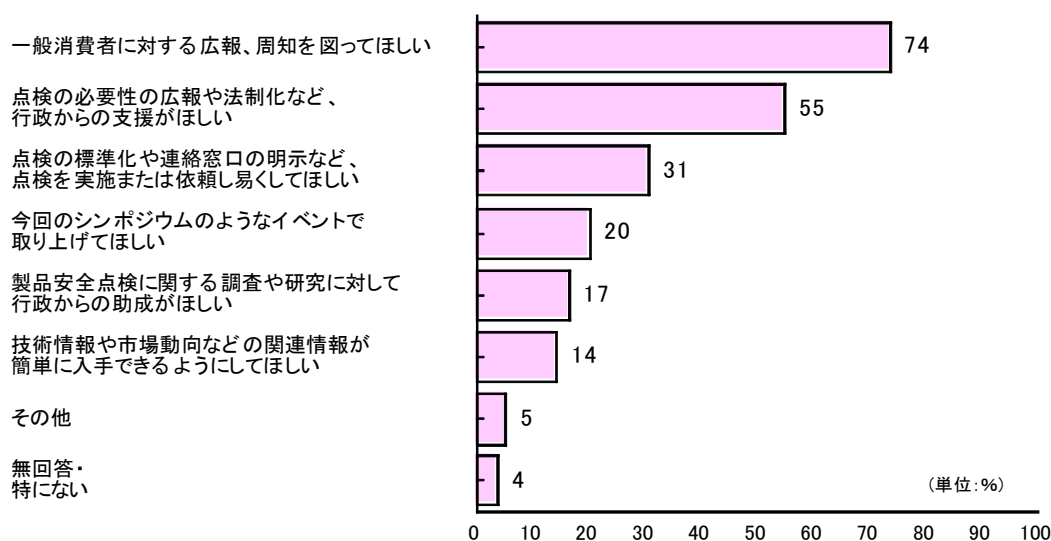


図5-1 “製品の情報や修理・交換に関する情報”についての要望事項【第5回】(n=133) (複数回答)

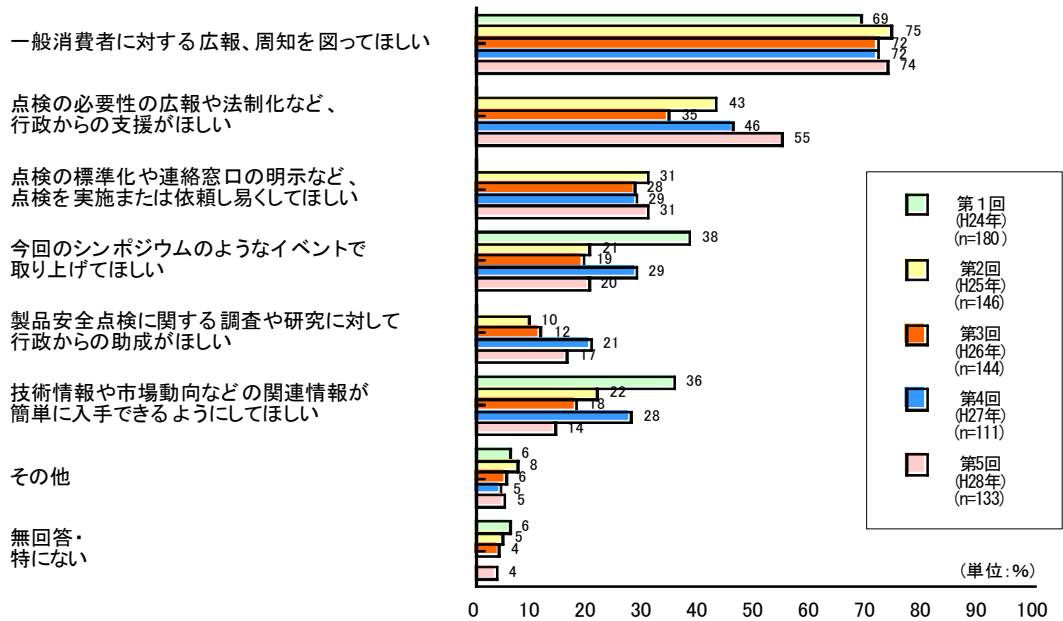


図 5-2 “製品の情報や修理・交換に関する情報”についての要望事項【経年比較】（複数回答）

（注）第1回及び第2回、第3回調査以降の回答選択肢は、同一ではない。該当する箇所が空白となっているものは、同様の質問が行われなかったものである。

“製品の情報や修理・交換に関する情報”に関するその他の具体的な意見としては、“法定点検化や点検の制度化”、“適切な情報提供”をはじめ“教育、文化を変える”といった視点での幅広い意見があげられている。

■ 今回は自由記述の記載が非常に多く、意見の多かった内容（自由記述）

- ・パネルディスカッションがとても良かった。時間を長くしてパネラーを増やして実施してほしい
- ・いえかるてが普及すれば、住宅設備の点検も進む。どう「いえかるて」を普及させるかが課題
- ・一般消費者向けの内容が薄い中で、消費者の立場の前田さんの話しはよかった
- ・住宅部品の点検の必要性を周知させるための ALIA の取り組みが理解できた。
- ・いえかるての考え方が参考になった
- ・消費者目線の話は良かった。前田さんの話は新鮮だった。
- ・地域工務店の取り組み事例がよかった。岡庭建設様の定期点検の取り組みはすばらしい。
- ・身近な事例での具体例について掘り下げた話が聞きたかった
- ・点検時期・交換目安時期の明確化（メーカー側より）
- ・長期間使用し続けるためには適切なメンテが必要であり、使用状況によって年数が異なることを知っていただく
- ・メーカーが担える文化、消費者が自ら行動する文化を作りあげていくことが大切と感じる。住宅に関する情報ネットワーク（メーカー、工務店、消費者、役所など）。
- ・消費者意識をどう変えるか、能動的であってほしい
- ・すべての住宅部品に対する点検の法制化（保守点検義務化でなく法定点検化）
- ・電気製品にも車検のようなものが必要かもしれない。
- ・点検費用等もきちんと周知してほしい
- ・住宅部品点検の必要性を実感した。